東京都立立川学園　学校通信⑧
令和８年 11 月 16 日発行

立川だより

東京都立立川学園
校長　　市川　裕二
東京都立川市栄町 1-15-7
電　話　042-523-1358

令和８年度の後半の過ごし方

副校長　野口　浩一

急激に寒さが増し、インフルエンザに罹患される方のお話しも多く聞くようになりました。幼児・児童・生徒はもちろんのこと、保護者の皆様もくれぐれも御自愛ください。
さる 10 月 23 日（金）、24 日（土）の立川祭に際しまして、保護者の皆様には衣装などの御準備などを初め、御協力ありがとうございました。学園となってから５回目の開催となり、運営についても教職員一同が様々試行錯誤を続けている段階ですが、お子様の成長した姿や活躍の場面を御覧いただけて何よりだと思っております。我々教職員にとっても、日常とは違った姿や、緊張する舞台発表でも立派に練習の成果を発揮できた皆さんの姿を見るにつけ、また新たな発見があった立川祭でもありました。

学校行事については、コロナ禍の影響や教職員の働き方改革の流れを受けて、これまで都立学校全体でも縮小の動きがありました。その意味では、幼児・児童・生徒が日常の学習活動の成果を皆さんに披露し、自己肯定感・自己有用感を高める機会として、立川祭は貴重かつ大きな役割・意義を担っていると感じます。舞台発表を終えた皆さんの表情から満足感が伝わってきて、感動的な一日でした。

さて、令和８年度も後半に入りました。各学部の最高学年の皆さんは、上級学部への進学や高等部生徒については就職など、進路先に向けての活動がこれからも続くかと思います。各授業や立川祭をはじめとした諸活動の経験を糧に、皆さんが自分で納得のいく来年度を実現することができたら、と思います。また、そのような未来が拓けることを、教職員一同でバックアップしていきます。

私自身が初めて高等部生徒の進路指導に携わったとき、進路指導の先輩教員から「生徒の進路は、探すものではなく創るものだ」という言葉を聞いたことがありました。非常に印象に残っただけでなく、その後の進路指導実務における自分の羅針盤ともいえる言葉になりました。理想だけではなく、地に足をつけた努力の先に進路の実現があります。現場実習や上級学校受験のための学習など、それぞれに取り組んできた成果が見られることと期待しています。そして、皆さんが充実感に満ちた表情で今年度を無事に終えることを、楽しみにしていたいと思います。

保護者の皆様におかれましても、引き続き本校の教育活動に、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

立川祭特集

10月23日、24日に立川祭が開催されました。24日の一般公開日は、保護者の皆様をはじめ、多くの方々に御参観いただきました。各学部の取り組みを御紹介します。

やーえ部門　小学部

各学年の個性が輝く素敵な舞台発表を行うことができました。今年は２つの会場で行い、小学部１～4年生は小体育館で、小学部５年生，６年生は初めての大体育館で発表をしました。１年生「森のかわいい音楽家」、２年生「ばけちゃまのバナナだいさくせん」、３年生「めざせスーパー忍者」、４年生「カラフルボックス」、５年生「きらきら音楽のたび」、６年生「音楽の世界へレッツゴー！」など、どの学年もみんなで協力しながら、１人１人が堂々と発表を行う姿が印象的でした。作品展では、１人１人が丁寧に作った色とりどりの作品が並び、見ごたえある展示となりました。

１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
					

やーえ部門　中学部

舞台発表では、１年生が「日曜日の５時半からのお笑い番組と言えば？立川学園に座布団とお笑いをお届けします！！」ということで、『立川笑タイム』を、２年生が「我々、立川学園応援団は、がんばる皆さんを応援します！フラッグやポンポンを使ったダンスに乞う御期待☆」ということで、『立川学園応援団』を、３年生が「サウンド・オブ・ミュージックの音楽を合奏やダンスで表現します。心を一つにして届ける音楽をお聴きください。」ということで、『サウンドオブミュージック』をテーマに発表し、練習の成果を十分に発揮できました。生徒達は練習の時から互いに見合い、称賛し合い、当日まで気持ちを高めていきました。買い物や展示見学も行い、他部門他学部とも関わることができました。





タッチ部門　幼稚部

１年生が「どうぞのいす」、２年生が「こぶたとおおかみ」、３年生が「がらすめだまときんのつのやぎ」の劇を発表しました。みんなで繰り返し絵本を読んで物語へのイメージを膨らませたり、劇に必要な道具を自分たちで作ったりしながら、物語の世界に親しみ、劇遊びを楽しんできました。また、それぞれの役になりきる中で、一人ひとりがイメージを膨らませ、表情や手話、動きを工夫して、体全体で表現する姿が見られました。立川祭が終わった後も、劇で使った帽子をかぶって役になりきったり、友達とやり取りを楽しんだりするなど、劇遊びの経験が日々の遊びへとつながっています。





タッチ部門　小学部

低学年（１～３年生）は、「しりとりの　だいすきな　おうさま」の劇をしました。「自分のセリフを覚えよう」「大きな動きで発表しよう」と目標を設定してから練習が始まりました。はじめは、セリフや動きを覚えることに苦労していましたが、練習を重ねていくと、話の流れをつかみ、大きな声や手話でセリフを言ったり、動いたりすることができるようになりました。

本番前には「手話・声・動きは大きく、ゆっくり」「セリフはお客さんを見て」「最後は笑顔で」の約束を確認し、舞台へ。緊張をしている様子も見られましたが、練習の成果を発揮し、多くのお客様に大きな拍手をいただくことができました。終わった後、児童からは「楽しかった！」「またやりたい！」と大きな達成感を感じているような姿が見られました。

劇の練習中も、劇が終わってからも、しりとりになっているものを見付けることが好きになった児童もいます。言葉に対する興味・関心が広がり、楽しみながら取り組むことができました。







高学年（4～6 年生）は、群読「詩の合唱」を発表しました。「夢・友情・平和・個性」をテーマにした４つの詩を通して、作者の思いが伝わるよう、表現を工夫しました。練習では、セリフを言う速さを調整したり、みんなで息を合わせたりしながら、大きな声とはっきりとした手話で表現することを意識し、何度も練習を重ねました。本番直前の舞台袖では、児童が互いに声を掛け合い、気持ちを一つにして舞台へ向かう様子が見られました。本番では、練習の成果を十分に発揮し、４つの詩に込められたテーマや作者の思いをお客様に伝えることができました。今回の発表は、児童にとって、夢をもつことや友達の大切さ、平和への願い、そして一人一人の個性を認め合うことについて、改めて考える機会となりました。






タッチ部門　中学部

タッチ部門中学部は、例年展示発表の年と舞台発表の年を交互に繰り返していて、今年度は展示発表の年でした。

学部の展示では、皆様に楽しんでもらうにはどのようなテーマの展示発表にした方が良いか、立川祭実行委員を中心に話し合い「おとぎ話の世界」をタッチ部門中学部のテーマにしました。様々な物語を楽しんでもらおうと、「ももたろう」「かさじぞう」「ヘンゼルとグレーテル」の３グループに分かれ、趣向を凝らした展示物を作りました。立川祭当日は大変好評でした。

３組は世界のお祭りをテーマにした体験のできる展示発表を行い、幼稚部や小学部、やーえ部門の児童・生徒を中心にたくさんのお客様に楽しんでいただきました。

その他にも教科学習の展示、部活動の展示、２年生３年生による和太鼓の発表など全力で立川際に向けて取り組みました。

夏休みからコツコツと準備を進めて、自分たちの考えを形にしていくことで様々なことを学ぶことができました。






タッチ部門　高等部

今年度も学校全体を盛り上げるべく、高等部全体で一丸となって取り組みました。１年生は観客を巻き込んだパフォーマンスで会場を盛り上げ、２年生は本格的なお化け屋敷で来場者を楽しませました。３年生は撮影方法を工夫した映画などを披露し、各学年の工夫が光る発表となりました。また、３組は「立丸」と称し、日頃の学習の成果を発表する機会として、焼き菓子や革製品の販売を行いました。他にも、情報系の生徒によるプロジェクションマッピングの披露や家政系の授業を選択している生徒たちによる、タッチ・やーえクッキーなどの販売、専攻科の映画からヒントを得た出し物等、高等部らしさが溢れていました。

発表や販売を通して、保護者の皆様をはじめ、御来場の皆様に生徒たちの学びの成果を御覧いただく機会となりました。ありがとうございました。



